

ぎよくとう農地利用最適化推進運動

農委会名：玉東町農業委員会

1 地域の概要

当町は、熊本県の北部、玉名郡の東南端に位置し、金峰山オレンジベルト地帯の一角をなし、南から北に向かって緩やかに傾斜するこの地帯は、安山岩植壤土で、みかん栽培に適した環境に恵まれている。北部は水田地帯、南部は果樹地帯からなり、地域性を活かした水稻・果樹等の栽培が行われている。

しかし、農業従事者の高齢化、担い手不足などで遊休農地が進み、有害鳥獣の被害や農地集積等、農地の有効活用ができていない。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 11人（うち、認定6人、女性2人）
- (2) 推進委員数 11人（うち、認定8人）
- (3) 事務局体制 3人（専任1人、兼任2人）

3 目標達成に向けた取組み（運動）内容

- 地区の農業委員と農地利用最適化推進委員が連携し、地域の課題である農地集積や遊休農地の発生防止等まず地域の現状を把握するため、人・農地プランの見直しに参画する。
- 地域の担い手（認定農業者等）との意見交換会を実施し、情報共有に努める。

4 取り組みの成果

- 地区の現状や課題について参加者から出た意見を今後に反映するため、継続して話し合いを進めて行くことを確認した。
- 担い手との意見交換会では、農地集積するために必要な対策等について情報を共有した。



（担い手との意見交換会）

5 課題と今後の方針等

地区で共通することは、担い手不足の問題が挙げられる。特に後継者育成が急務であるが受入れ体制ができていないため、組織の立ち上げなど関係機関が連携して取り組まなければならない。

今後も遊休農地の発生防止やその解消、また、担い手への農地の集積を推進していくため、互いに連携を図りながら、農地利用の最適化の推進に努めていく。